

奈良国立文化財研究所概要



1984

目 次

沿革付年表	2
組織	3
機構	3
定員	3
役職職員	4
予算	4
歳出予算	4
科学研究費補助金	4
施設	5
土地及び建物	5
事業	7
建造物研究室	7
歴史研究室	7
平城宮跡発掘調査部	8
飛鳥藤原宮跡発掘調査部	9
飛鳥資料館	10
埋蔵文化財センター	11
普及活動	12
公開講演会	12
現地説明会	12
刊行物	12
蔵書及び資料	14

沿革

奈良国立文化財研究所は、文化財保護委員会（現、文化庁）の附属機関として文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行うことを目的として昭和27年4月奈良市春日野町50番地に設置された。設立の発端は、吉田茂首相が奈良県視察の際、南都諸大寺に伝わる文化遺産のすばらしさを目のあたりにし、これらの文化財を保護宣揚するため、現地における美術学校又は美術研究所設置の構想をもたれたことによるといわれ、当初は、美術工芸研究室、建造物研究室、歴史研究室、庶務室の4室で発足した。

その後、昭和35年10月には平城宮跡発掘調査事務所（現、平城宮跡発掘調査部）、昭和45年4月には飛鳥藤原宮跡調査室（現、飛鳥藤原宮跡発掘調査部）が、さらに昭和48年4月には飛鳥資料館、昭和49年4月には埋蔵文化財センターの設置をみて今日に至っている。

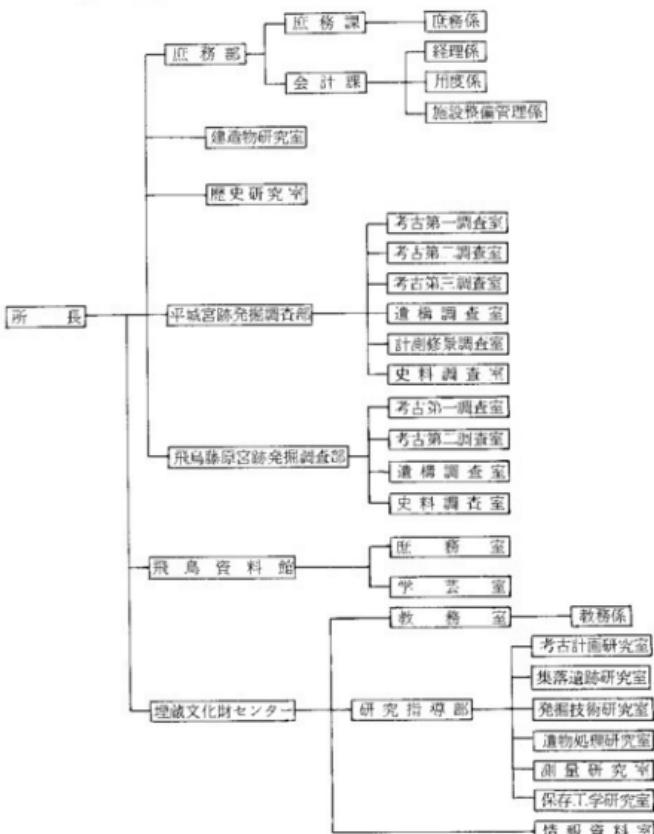
年表

昭和26.10. 6	奈良文化財研究所設置準備規程（文化財保護委員会裁定第11号）により設置準備会発足
27. 4. 1	文化財保護委員会の附属機関として奈良文化財研究所（庶務室、美術工芸研究室、建造物研究室、歴史研究室）設置
29. 7. 1	奈良國立文化財研究所と改称
35.10.15	平城宮跡に発掘調査事務所設置
36. 9. 15	庶務室は庶務課となる。
38. 4. 10	平城宮跡発掘調査部が設けられる。
39. 4. 1	同調査部に第一～第二調査室、保存整理室、史料調査室を置く。
40. 4. 1	同調査部に新たに第四調査室を置く。
43. 6. 15	文化庁発足、その附属機関となる。
45. 4. 15	平城宮跡資料館開館
45. 4. 17	平城宮跡発掘調査部の組織を考古第一～考古第三調査室、遺構調査室、計測修景調査室、史料調査室、飛鳥藤原宮跡調査室と改める。
48. 4. 12	会計課、飛鳥藤原宮跡発掘調査部（第一調査室、第二調査室）、飛鳥資料館（庶務室、学芸室）設置
49. 4. 11	庶務部（庶務課、会計課）、埋蔵文化財センター（教務室、考古計画研究室、測量研究室）設置
50. 3. 15	飛鳥資料館開館。
50. 4. 2	埋蔵文化財センターに研究指導部設置。同部に遺物処理研究室新設
51. 5. 10	埋蔵文化財センター研究指導部に集落遺跡研究室新設
52. 10. 1	埋蔵文化財センター研究指導部に保存工学研究室新設
53. 4. 5	飛鳥藤原宮跡発掘調査部の組織を考古第一調査室、考古第二調査室、遺構調査室、史料調査室と改める。
53. 10. 1	埋蔵文化財センターに情報資料室新設
55. 4. 5	美術工芸研究室を奈良國立博物館（仏教美術資料研究センター）に移転
55. 4. 26	府舎移転（奈良市二条町）、併せて平城宮跡発掘調査部、埋蔵文化財センターを庁舎に統合
58. 10. 1	埋蔵文化財センター研究指導部に発掘技術研究室新設

組 織

昭和59年4月1日現在

機 構



定 員

区分	指 定 職	行政職(一)	行政職(二)	研 究 職	計
人 員	1	22	4	67	94

役職員

所長	坪井清足						
庶務部	部長 大村幸男	庶務課	計課	長長	笹松	山本	保保
建造物研究室		室		長	吉	田	美之
歴史研究室		室		長	鬼	頭	靖
平城宮跡発掘調査部	部長 国田英男	考古学	調査室	室長	工森	楽	通夫
		考古学	調査室	長	山宮	善郁	尚郎
		考古学	調査室	長	田岡	本木	忠二
		遺構	調査室	長	高	中田	長哲
		遺計	調査室	長	西英	本木	雄男
		史料調査室	長事務取扱	長	加	下上藤	興正
飛鳥藤原宮跡発掘調査部	部長 特野久	考古学	調査室	長及長	佐木村	日猪	治史
		考古学	調査室	長	加	高熊	一優
		考古学	調査室	長			大勝
飛鳥資料館	館長 坪井清足	庶務課	芸室	長			泰兼
埋蔵文化財センター	センター長 田中琢	教育情報	資料室	長	若岩	井本	明郎
研究指導部	部長 佐原真	考古学	調査研究室	室長	松町	沢田村田	生章康昭
		集落遺跡	研究室	長	西沢木	全原	昭示
		発掘	研究室	長	安		
		遺物	研究室	長			
		測量	研究室	長			
		保存	工学	長			

予算

歳出予算

(単位 千円)

区分	57年度	58年度	59年度(当初)
人件費	441,202	455,192	469,437
運営費	617,230	619,821	666,789
施設費	310,531	330,641	344,759
臨時の経費(基原併合)	0	0	615,000
計	1,368,963	1,405,654	2,095,985

科学研究費補助金

()書きは件数(単位 千円)

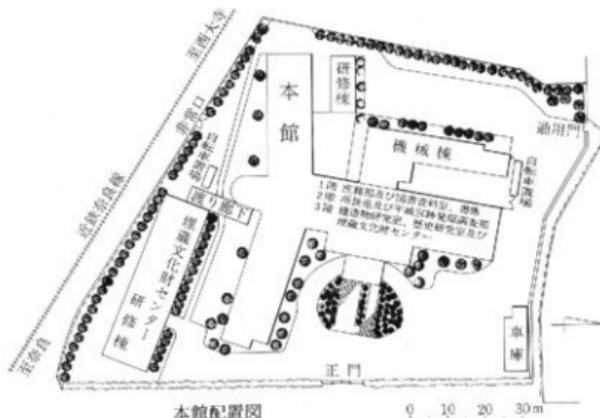
区分	56年度	57年度	58年度
特定研究(A)	(1) 12,000	(1) 19,500	
総合研究(A)		(1) 3,300	
一般研究(A)	(1) 800		
	(B) 5,700	(4) 10,300	(5) 12,000
	(C) 3,760	(2) 2,400	(3) 2,300
奨励研究(A)	(7) 5,460	(4) 3,300	(4) 3,200
試験研究(I)		(1) 8,800	(1) 6,400
試験研究(2)	(1) 4,930	(1) 2,000	
研究成果刊行費			(1) 3,380
計	166 32,600	104 49,600	27,280

施 設

昭和59年4月1日現在

土地及び建物

名 称	土 地 面 積	建 物 面 積		備 考
		建 面 積	延 面 積	
本 館	8,860 m^2	2,792 m^2	6,793 m^2	
平 城 宮 踪	1,037,580	7,811	10,632	土地……文部省所管 建物……平城宮跡資料館及び覆屋
藤 原 宮 踪	270,781	36	36	土地……文部省所管
藤原発掘調査部	6,721	プレハブ 3,024	プレハブ 3,082	民有地借上
飛 像 資 料 館	17,092	1,465	2,682	
旧 米 谷 家 住 宅	298	190	213	民有地借上 重要文化財
宿 舎	1,654	334	378	
飛 像 資 料 館	1,343	225	225	
都 山	311	109	153	土地 231 m^2 大蔵省所管を含む
合 計	1,342,986	15,652	23,816	

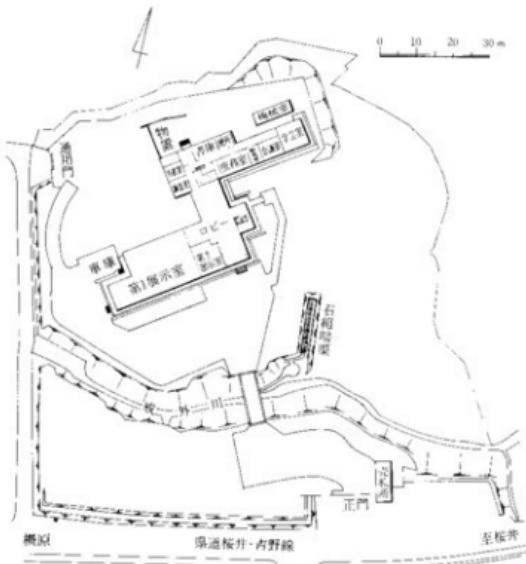




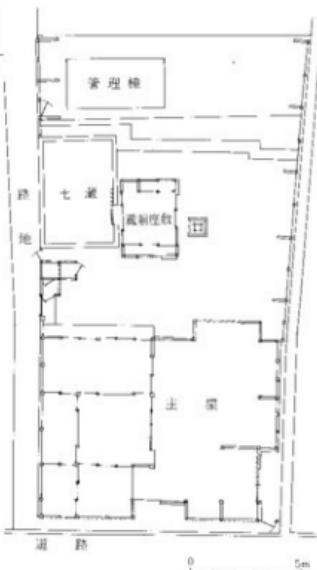
平城宮跡資料館配置図



平城宮跡覆屋配置図



飛鳥資料館配置図



旧米谷家住宅配置図

事 業

建造物研究室

建造物及び伝統的建造物群に関する

調査研究とその結果の公表を行う。



建 造 物 の 調 査

歴史研究室

考古、史跡及び社寺等に伝存する古文書、典籍等歴史資料に関する調査研究とその結果の公表を行う。



古 文 書 等 の 調 査

87-L-3955

平城宮跡発掘調査部

奈良時代70余年の帝都として栄えた平城宮跡等の発掘、調査研究を行うとともに出土した木器・金属・土器・瓦・木簡・遺構等の保存整理・遺構の計測・修景及びこれらに関する調査研究並びに史料の収集及び調査研究とこれらの結果の公表を行う。

さらに発掘調査済の地域等について、遺構そのものが理解しやすいように修景整備し、あるいは遺構、遺物等を展示して一般に公開している。



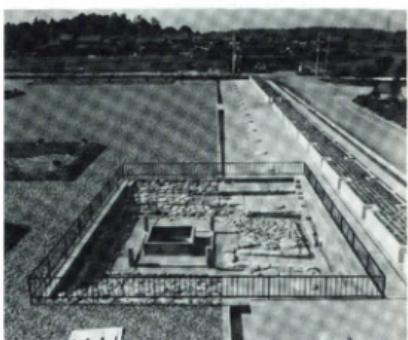
平城宮跡全景

^79-c-37



79-c-2281

発掘された奈良時代の石敷井戸とその復元展示



^79-c-92-98
^79-c-66.07

飛鳥藤原宮跡発掘調査部

日本で初めて律令国家体制が形成され飛鳥文化が開化した時代の中心的地域である藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡の発掘、調査研究を行うとともに、出土した木器・金属・土器・瓦・木簡・遺構等の保存整理・遺構の計測・修景及びこれらに関する調査研究並びに史料の収集及び調査研究とこれらの結果の公表を行う。



藤原宮跡 大極殿周辺

-7 78-B-250



山田寺東回廊建物（北から）

飛鳥資料館

飛鳥地域に関する考古資料、歴史資料、建造物、絵画、彫刻その他の資料を収集保管し、調査研究するとともに、飛鳥地域の歴史的意義及び文化財に関し、一般の理解を深めるためこれらを展示して公衆の観覧に供している。



飛鳥資料館全景



石人像（重要文化財）
3790-725,76

飛鳥時代の庭園に使われた噴水



高松塚から出土した飾金具と鏡（重要文化財）

入館者数

単位：人

区分		年度	昭和56年度	昭和57年度	昭和58年度	
			一般	高・大学生	小・中学生	
有料観覧	普通観覧	一般	42,107	48,222	46,244	
		高・大学生	16,248	15,786	15,483	
		小・中学生	12,003	13,675	16,180	
	団体観覧	一般	22,273	27,483	29,863	
		高・大学生	31,704	31,429	30,111	
		小・中学生	46,513	60,658	66,463	
計			170,848	197,253	204,344	
無料観覧			8,709	10,826	10,595	
合計			179,557	208,079	214,939	

埋蔵文化財センター

埋蔵文化財に関する調査研究及び関連技術の開発ならびにその結果の公表を行うとともに、埋蔵文化財の調査、保存整理に関し、地方公共団体等の求めに応じ、専門的、技術的な指導・助言を、また埋蔵文化財に関する情報資料の作成、収集、整理、保管並びに調査研究を行い、これらについても広く地方公共団体等の利用に供している。

さらに、埋蔵文化財の調査、保存整理に関し、地方公共団体の職員等に対し技術的な研修を行っており、研修の主な課程は次のとおりであり、昭和58年度までの受講者累計は1,623名である。

区分	課程	区分	課程
一般研修	一般課程	専門研修	環境考古課程
専門研修	集落遺跡調査課程	"	保存科学応用課程
"	遺跡測量課程	"	発掘調査関連技術課程
"	遺跡保存整備課程	特別研修	特殊調査技術課程
"	保存科学基礎課程	"	埋蔵文化財基課程
"	中近世遺跡調査課程	"	



研修風景



情報処理機器 埋蔵文化財関係資料の
情報処理を行う。



P.E.G含浸装置 ポリエチレングリコールを使用し、木材、木器等を永久保存するための処理装置



写真測量図化機 スtereometrograph E型を
使用して実測図を作成する。

◆◆◆-L-536

普及活動

(1) 公開講演会

調査研究の結果を一般に公表する一端として毎年春と秋に行っており、最近の講演は次のとおりである。

講演回数	演題	講演回数	演題
第51回 (57.5.29)	藤原宮その後 —廃都後その土地再開発について— 飛鳥石神遺跡の発掘調査	第53回 (58.5.21)	7世紀における同范群瓦について 高句麗の都城
第52回 (57.11.20)	伝統的町並の再生 奈良三彩の造形意匠について	第54回 (58.11.19)	飛鳥の氏寺—山田寺を中心に— 古代庭園の植栽について

(2) 現地説明会

発掘調査を行った現地を一般に公開し、調査研究の成果を公表している。

設定期会年月日	発掘調査場所	設定期会年月日	発掘調査場所
57. 6.19 6.26 10.30 11.27 12.18	石神遺跡 平城宮跡第139次 山田寺跡 檢院寺跡 平城宮跡第140次	58. 7.16 9.10 10.15 11.12 12.24	山田寺跡東回廊発掘調査現地見学会 平城宮跡第152次 石神遺跡 藤原宮跡第37次 平城宮跡第153次
58. 3. 5 6.18 7. 2	平城宮跡第146次 平城宮跡第149次 平城宮跡第150次	59. 1.26 ~27 3.24	称德天皇山在伝承地発掘調査現地見学会 平城宮跡第154次

(3) 刊行物

イ、学報

年度	名 称	年度	名 称
1954	第1冊 仏師通鑑の研究	1971	第21冊 研究論集 I
	第2冊 修学院離宮の復原的研究	1973	第22冊 研究論集 II
1955	第3冊 文化史論叢	1974	第23冊 平城宮発掘調査報告 VI
1956	第4冊 余良時代僧房の研究	1975	第24冊 高山一町並調査報告一
1957	第5冊 飛鳥寺発掘調査報告	1975	第25冊 平城京左京三条二坊
1958	第6冊 中世庭園文化史	1976	第26冊 平城宮発掘調査報告 VII
	第7冊 関福寺食堂発掘調査報告	1977	第27冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告 I
1959	第8冊 文化史論叢 II	1978	第28冊 研究論集 III
	第9冊 川原寺発掘調査報告	1979	第29冊 木曾奈良井一町並調査報告一
1960	第10冊 平城宮跡・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告	1976	第30冊 五条一町並調査の記録一
1961	第11冊 院家建築の研究	1977	第31冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告 II
1962	第12冊 巧匠安阿弥陀弘法像	1978	第32冊 研究論集 IV
	第13冊 寝巣造系庭園の立地的考察	1979	第33冊 イタリア中部の一山岳集落における
	第14冊 唐招提寺蔵「レース」と「金龜舍利塔」 に関する研究	1978	民家調査報告
	第15冊 平城宮発掘調査報告 II	1978	平城宮発掘調査報告 IX
1963	第16冊 平城宮発掘調査報告 III	1979	第35冊 研究論集 V
1965	第17冊 平城宮発掘調査報告 IV	1979	第36冊 平城宮整備調査報告 I
	第18冊 小堀遠州の作事	1979	第37冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告 III
1967	第19冊 藤原氏の氏寺とその院家	1980	第38冊 研究論集 VI
1969	第20冊 名物製の成立	1980	第39冊 平城宮発掘調査報告 X
		1981	第40冊 平城宮発掘調査報告 XI

歴史資料

年度	名 称	年度	名 称
1964 第1冊	南氣阿弥陀仏作善集(複製)	1978 第14冊	日本美術院彫刻等修理記録V
1955 第2冊	西大寺假尊記集成	第15冊	東大寺文書目録第一卷
1963 第3冊	仁和寺史料 寺誌編一	第16冊	日本美術院彫刻等修理記録VI
1964 第4冊	俊乗坊重慶史料集成	第17冊	平城宮木簡三 図版・解説
1966 第5冊	平城宮木簡一 図版	第18冊	藤原宮木簡二 図版・解説
1967 第6冊	仁和寺史料 寺誌編二	第19冊	東大寺文書目録第二卷
1969 第7冊	平城宮木簡一 解説(別冊)	第20冊	日本美術院彫刻等修理記録VII
1970 第7冊	唐招提寺史料一	第21冊	東大寺文書目録第三卷
1974 第8冊	平城宮木簡二 図版・解説	第22冊	七大寺巡礼私記
1975 第9冊	日本美術院彫刻等修理記録I	第23冊	東大寺文書目録第四卷
1976 第10冊	日本美術院彫刻等修理記録II	第24冊	東大寺文書目録第五卷
1977 第11冊	日本美術院彫刻等修理記録III	第25冊	平城宮出土墨書き土器集成 I
1977 第12冊	藤原宮木簡一 図版・解説	第26冊	東大寺文書目録第六卷
1978 第13冊	日本美術院彫刻等修理記録IV		

八、飛鳥資料館図録

二 基準資料

年度	名 称	年度	名 称
1976 第1冊	飛鳥白鳳の在銘金銅仏	1973 第1冊	瓦編1 解説
第2冊	飛鳥白鳳の在銘金銅仏 銘文篇	1974 第2冊	瓦編2 解説
1977 第3冊	日本古代の墓誌	1975 第3冊	瓦編3
1978 第4冊	日本古代の墓誌 銘文篇	1976 第4冊	瓦編4
第5冊	古代の誕生仏	1977 第5冊	瓦編5
1979 第6冊	飛鳥時代の古墳—高松塚とその周辺—	1978 第6冊	瓦編6
1980 第7冊	日本古代の誌略	1979 第7冊	瓦編7
1981 第8冊	山田寺庭園	1980 第8冊	瓦編8
1982 第9冊	高松塚拾年	1983 第9冊	瓦編9
1983 第10冊	渡来人の寺—奈良寺と坂田寺		
第11冊	飛鳥の水時計		
第12冊	小野町の世界—埴輪から瓦塔まで—		

木、地 図 (大縮尺図、縮尺1:1,000、航空写真より図化)

区 分	國化面数	國 化 地 域
平 城 京 域	67	押熊、桑原、中山、外山、盾列、淡谷、赤井谷、秋篠寺、山陵、西畠、歌姫、コナベ、ウツナベ、黒巣山、佐保山、船若寺、野神、西大寺、平城宮(仁)、法華寺、不退寺、佐保、法蓮、東大寺(仁)、宝來、官原、尼ヶ丘、北新、田村、藏ノ町、三条、興福寺、春日野、平松、唐招提寺、六条、柏木、八島田、大安寺(仁)、京終、元興寺、紀寺、新薬師寺、大池、薬師寺、西ノ京、杏、八条、神殿、討塚、大藏冠、西市、鐵音寺、羅城門、西九条、東九条、北永井、登坂、野垣内、下二橋、上三橋、北ノ庄、今市、帶解
下 ツ 道 地 域	45	大師、岩楓、美濃庄、井戸野、池田、藏ノ庄、三条、中、官堂、二階堂、西葛繩、嘉幡、庵治、満幡、石見、唐古、八尾、鍵、田原本、阪手、秦ノ庄、南阪手、多、笠縫、新口、西垣内、類田部、額田郡北方、穴闇、長桑、保田、唐院、沢、大野、小柳、大場、乙木(仁)、佐保庄、竹之内
飛 鳥 藤 原 地 域	43	木原、耳成山、常盤、西之宮、今井(仁)、小房、鶴公、高殿北部、膳夫、木殿、飛驥、高殿、香久山、池屋、久米寺、丈六、田中、雷、奥山、山田寺、鳥屋、益田池、見瀬、和田、豊浦、飛鳥寺、八鉄、越、野角、立郎、橋寺、岡寺(仁)、真弓、桧前、上平田、祝井、坂田、觀寳寺、栗原、大根田、東常門
計	155	

その他、編集図(縮尺1:2,000)

平城宮跡、藤原宮跡、藤原京(仁)、五条野、飛鳥、若槻莊、池田莊、小東莊、乙木莊

へ、年 報

1958～1983 每年1冊 計26冊

ト、埋蔵文化財ニュース

1975～1983 每年数冊 計46冊

（ 藏書及び資料 ）

藏 書

72,718冊（昭和58年度末現在）

区 分	種 別	購 入	寄 贈	計
58 年度	和 漢 書 洋 書	1,576 260	3,988 58	5,564 318
累 計	和 漢 書 洋 書	34,961 4,122	32,940 695	67,901 4,817

資 料

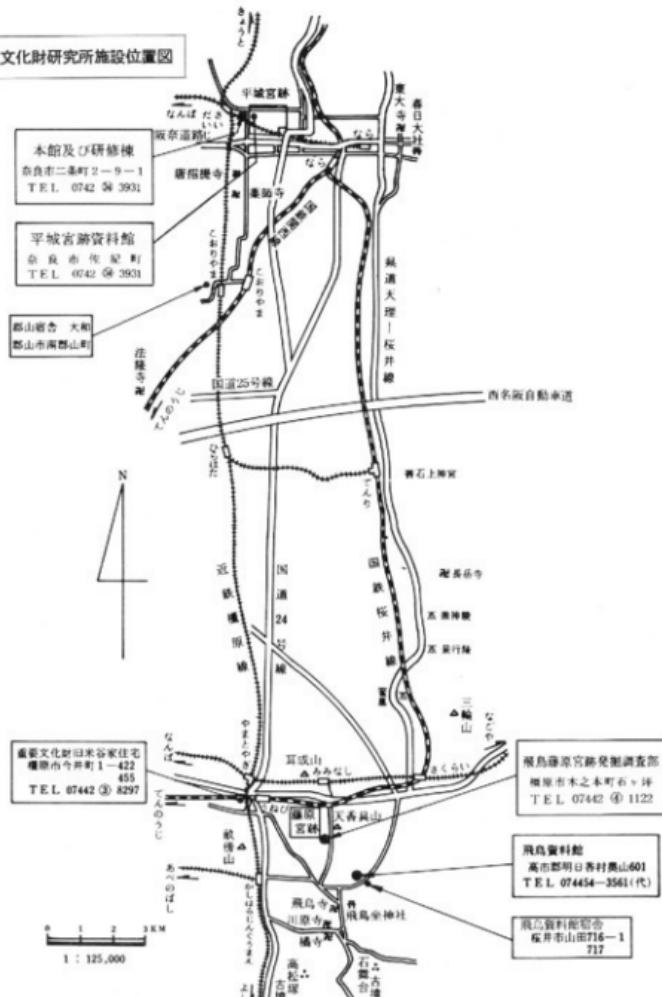
259,143点（昭和58年度末現在）

区 分	キヤビネ	スライド	ライカ	プローニー	ミニコビー	その 他	計
58 年度	4,358	6,227	3,497	1,578	22	103	15,785
累 計	88,242	73,862	54,664	32,826	1,830	7,719	259,143



第三書庫 地図、実測図、拓本、航空写真ロールネガ
などを保管

奈良国立文化財研究所施設位置図



飛鳥藤原京・平城京関係略年表

西暦	年号	事項	西暦	年号	事項
538		仏教伝来	711	4	大官大寺焼失
588	崇峻 1	飛鳥寺を造り始める	716	靈龜 2	大安寺を移す
593	推古 1	推古天皇豈浦宮に即位	718	養老 2	藥師寺・元興寺を移す
601	9	聖德太子斑鳩宮を造る	730	天平 2	薬師寺東塔建立
603	11	小堅田宮に遷る	739	11	法隆寺夢殿、伝法堂建立
606	14	坂田寺を造る	740	12	恭仁宮に遷る。平城宮大極殿等を運ぶ
607	15	法隆寺を造り始める	744	16	難波を都とする
630	舒明 2	飛鳥岡本宮に遷る	745	17	平城宮に還る。法華寺を造る
636	8	飛鳥岡本宮焼失、田中宮に遷る	752	天平 4 勝宝	東大寺大仏開眼供養
639	11	百濟大寺を造り始める	755	7	平城宮改作
640	12	百濟宮に遷る	756	8	聖武天皇77忌に遺品を東大寺等に納める
641	13	山田寺を造り始める			
642	皇極 1	小堅田宮に遷る	759	天平 3 宝字	唐招提寺を造る。平城宮東朝集殿を唐招提寺に施入
643	2	飛鳥板蓋宮に遷る	761	5	平城宮改作
645	大化 1	難波長柄豊磐宮に遷る			
653	白雉 4	中大兄皇子、皇極等と飛鳥河辺行宮に遷る	765	天平 1 神護	西大寺を造る
655	齊明 1	飛鳥板蓋宮焼失、飛鳥川原宮に遷る	767	神護 景雲	西隆寺を造る。東院玉殿完成
656	2	飛鳥岡本宮に遷る			
667	天智 6	近江大津宮に遷る	784	延暦 3	長岡京に遷る
672	天武 1	飛鳥淨御原宮に遷る	794	13	平安京に遷る
680	9	藥師寺を造り始める。橘寺尼房焼失			
691	持統 5	藤原京を鎮祭する			
694	8	藤原宮に遷る			
710	和銅 3	平城京に遷る。興福寺を造る			

(裏表紙写真) 鬼面文鬼瓦

平城宮の内裏西外郭から出土した鬼面の鬼瓦。高さ約40cmあり、平城宮で最大の鬼瓦。天平年間に造営された内裏地域の建物の屋根を飾った。

奈良国立文化財研究所概要

発行日 昭和59年6月20日
発行 奈良国立文化財研究所



~76-c-665.666